

文化財観光施設を活用した歴史体験検討委員会（第3回）

－ 議 事 録 －

日 時：令和元年12月18日（水）14時00分から15時20分

場 所：大洲市役所2階大ホール

出席者：委 員 14名 ※うち1名委任状/別添名簿のとおり

その他

- ・松田副市長
- ・谷川建設部長
- ・都市整備課（久保）
- ・（一社）キタ・マネジメント（兒玉、井上）
- ・バリューマネジメント（株）（池上、井上）
- ・観光まちづくり課（河野、窪田、村中、高橋、久世）
- ・傍聴者（兒玉議員、中野議員、愛媛新聞記者）

1 開 会

進行：河野

委員構成のうち市議会選出の委員様に交代がありましたので、ご報告させていただきます。

大洲市議会議長山本光明様が押田憲一委員様と交代し、新任されております。また、大洲市議会産業建設委員長新山勝久様が中野寛之委員様と交代し、新任されております。

2 会長挨拶

挨拶：城戸会長

本日は、お忙しい中「文化財観光施設を活用した歴史体験検討委員会」にご参集いただき、誠にありがとうございます。

今回は、第3回目の会議開催となるわけですが、11月8日及び9日に実施した「実証実験」を踏まえ、実施に向けた「実施計画」について、委員の皆様からご意見を頂戴できればと存じます。

これまで、事務局においても、市内の各種団体等への説明会を実施されておられ、市民の皆様のご理解もいただきながら本日を迎えております。

人口減少を抑えた、将来のためには、文化財の活用と地域経済の活性化は大変重要な課題でありますので、委員の皆様の忌憚のないご意見を頂戴しながら、実施に向けて前進できればと考えております。

何とぞ、よろしくご審議を賜りますよう、ご協力をお願い申し上げ、開会に当たってのご挨拶といたします。

3 議事

議事進行：城戸会長

■報告第1号 実証実験 実施報告について

説明：村中

別冊「文化財観光施設を活用した歴史体験 実施報告書」に基づき事務局より説明が行われた。

■質問

(会長)

事務局より説明があった。質問はないか。

(自治会連絡会議：山内)

宿泊の体験についての報告が入っていないが、職員等は泊まったと聞いている。泊まってみてどうだったか。大洲は寒くて、暑い。どうクリアするのか。

(事務局：村中)

今回の趣旨は安全面を確認することだったので、法令において設備等をチェックした。泊まったのは、市職員1名、キタM2名、歴文会1名。内容は安全に行き来が出来るか、照明はどうかという点を点検した。

寒さについては、当日は冷え込んだ日だったが、障子戸のおかげで室温は高いと感じた。寒さ対策において障子戸は良かったと思う。1時ぐらいまでは安全面のチェックをし、4時頃の起床であったため、寝袋で対応した。快適に泊まったわけではないので、宿泊者の立場からはわからなかった。

・原案のとおり決定

■議案第1号 実施計画について

説明：村中

別冊「文化財観光施設を活用した歴史体験 実施計画」に基づき事務局より説明が行われた。

■質問

(会長)

事務局より説明があった。質問はないか。

(鉄砲隊：城戸)

予約について、年間の予約日を設定するとあるが、真夏と真冬は除外されるか。

(VM:他力野)

春と秋の期間限定で開催を予定している。気温の良い時期の中から30日を選ぶ。詳細は協議中である。

(鉄砲隊：城戸)

大洲藩鉄砲隊員は仕事をしている人が多い。その季節で、実証実験ほどの人数が毎週出ることは難しい。人数が減っても良いか。それとも雅楽などの他の企画と交代するのか。

(VM：他力野)

可能な範囲で実施する。何人でスタートするかは別途協議させていただきたい。

(鉄砲隊：城戸)

何点か実証実験において問題があったので、連絡しておく。

馬は銃声に対してはあまり驚かなかった。しかし、銃を袋から出さないという条件があり、普段はしない袋に入れたまま火薬を入れる作業は、発砲が出来ないものがあったなど問題があった。

30日間の実施は警察が許可するかわからない。

実証実験では幟隊の着付けを鉄砲隊が行い、2倍時間が掛かったので、着付けは自分で出来るようにしておきたい。

発砲の合図についても、手で行なったが、無線があれば良い。

雨天時は実施が出来ないが、強風でも発砲は難しいという状況がある。

(キタ M：井上)

幟隊はキタ M 職員が担う予定にしており、着付けは出来るようにしておく。強風などの天候による中止は、予約の段階で事前にそういうことがある旨をお知らせし、承知の上で来てもらう。

警察については、協力してもらえるように一緒に伺いたい。

銃が馬に見えないように待機出来るような場所を検討する。

(自治会連絡会議：山内)

曳き馬について、初体験の方や高齢の方は、鎧を付けて乗馬することは難しいのではないかと感じた。

(VM：他力野)

実証実験で伍代さんに体験していただいたように、見てもらう方が基本となる。乗馬していただくにはハードルが高いため、乗馬経験が豊富で、事前に練習をするなどした場合に行うことを想定している。

(市議会：山本)

カフェになる施設のプレハブは移動式であることを要望していたが、どうなっているか。

実証実験で食事は3人だけ頂いたが、美味しかった。城主体験ということなので、フレンチだけではなく、日本古来の和食を選ぶことは出来ないか。大洲の芋を使うなどのことをすると大洲の思い出が出てくるのでは。

(VM：他力野)

外国人の受入を他の施設でしており、ヴィーガンやベジタリアンなど細かい対応も行っている。その中でいかに和食を提供出来るか検討する。予約者には事前に電話し、確認をすることとしている。外国人は注意事項が多いので、密なやりとりをする。

城泊を通して、大洲の製品の知名度が上がって、波及していくことが大事だと考えている。最終的なゴールとして消費に繋がることを見据えて事業を行いたい。まだ知らない食材があると思うので、皆様に教えていただきながら進めて、毎年進化させていきたいと思っている。

(キタ M：井上)

コンテナについては埋蔵文化財など、遺構を傷つけない形で、盛土をし、仮設のような形でお風呂やカフェレストを設置する。

(市議会：山本)

和食の中で出来るだけ大洲のものを出していくことが出来れば良いと思う。

建物はすぐに移動できるものを話していたが、基礎コンクリートを打ち、ボーリングするということであれば一からの話となる。簡易的なものだと思っていた。

(キタ M 井上)

盛土の上にはコンクリートブロックを置くだけであるので、基礎は打たない。

(市議会：山本)

基礎を行わずに、すぐに移動できる仕様であることを要望する。

(観光協会：藤岡)

親子城主体験と聞いて違和感があった。せっかく 100 万円の価値を付ける城泊が無駄になるのでは。市民誰でも良いことにするか。小学生の子供に泊まらせてもわからない。これに関しては反対したい。どのような経緯で決まったのか。

(松田副市長)

中身は詰めていくこととしている。意見を聞く中で まずは大洲市民に泊まってもらうのが筋ではないかという意見があり、提案するに至った。

(歴文会：今井)

城泊で子どもが入るとは思っていなかった。城を傷つける可能性があるので、真剣に検討していただきたい。また、臥龍山荘不老庵は外回りの手すりが低いため安全性も気になる。良いものにするためにいろんな知恵を絞って協議したい。

(事務局：村中)

子供の安全と、傷つけないための方法をよく検討させていただきたい。基本的にターゲットは大人であり、子どもがいた場合を想定して金額を入れている。

(市議会：新山)

城泊については反対だが、やるからには成功して欲しい。

首里城は火事に遭ったが、城泊で大洲城に火は持ち込まないことを確認したい。

また、1泊100万で、6人になれば140万となるが子どもの取り扱いも同じか。

(VM：他力野)

6人の料金は大人の場合の料金であり、子どもは別料金としている。

(市議会：新山)

城主体験は趣のあるものだと思っていたので、子どもが体験することは思い浮かんでいなかった。

(VM：他力野)

火は持ち込まない。空調がないことは事前にお客様にお知らせする。

子どもの宿泊は基本考えていない。来た場合の想定として入れており、年齢によって受け入れるかどうかは考える必要がある。これもこの会などで合意形成があった上で決めたい。

(歴文会：今井)

テレビで見たが、京都の仁和寺は120万で宿泊が出来、要約がいっぱいであるとのこと。今は見るだけではなく、活用する時代になっている。

・全員の挙手により、原案のとおり決定

4 その他

説明：VM 他力野

別紙「大阪迎賓館における食中毒事故に関するお詫びとお知らせ」に基づき説明が行われた。

■質問
なし

5 閉会

